



移動に関する認知症まちづくり 地域円卓会議

認知症になることで直面する「移動の困難」について考える

実施報告書

- 日時： 2024年7月21日（日）14:00-17:00（受付開始13:30-）
場所： 琉球大学附属図書館 2階ラーニング・コモンズ（沖縄県中頭郡西原町字千原1番地）
主催： 沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
協力： 琉球大学地域連携推進機構、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】移動に関する認知症まちづくり地域円卓会議



- 日時：2024年7月21日（日）14:00-17:00
- 場所：琉球大学附属図書館 2階ラーニング・commons
- 着席者数：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 参加者数：43名（学生、行政、企業等）
- 主催：沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、
公益社団法人沖縄県地域振興協会）
- 協力：琉球大学地域連携推進機構、
NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

松田 可奈子（公益財団法人みらいファンド沖縄 プログラムオフィサー）

認知症になることで直面する「移動の困難」について考える

休眠預金を活用した認知症まちづくり事業は、最終年度を迎え、助成を受けた各実行団体は、介護保険事業とは別に新しい居場所づくりにチャレンジしてきました。それは地域の中で認知症の方本人がやりたいことを実現し、かつ地域で役割を得ることで「例え認知症になっても、自分らしく生きる」というテーマへのチャレンジです。これらのチャレンジの中で、居場所や拠点が充実しても、その場所までどう移動するかという課題が発生してきました。

認知症や介護支援等が必要になった途端、「移動」にまつわる困難に直面します。沖縄はもともと公共交通が脆弱で、車移動が前提のまちづくりになっていることから、支援が必要になった時、運転免許返納をはじめ、色々な移動の制限が生まれ、そこには、ご家族への負担増として、しわ寄せが起きています。制度的サポートを受ける時には、行政区内か、越境かによって、バリアが生じます。これは一つの行政区内で済む問題ではなく、広域で考えていく必要があります。今回の地域円卓会議では、認知症の方の「お出かけの権利」を保障するための移動について、みんなで考えます。

センターメンバー



松田可奈子
公益財団法人
みらいファンド沖縄
プログラムオフィサー



桃原徹貞
南風原町
社会福祉協議会
福祉サービス支援係



新城 啓太
しんじょう
社会福祉事務所
社会福祉士



石川 直希
沖縄県保健医療介護部
地域包括ケア推進課
地域包括ケア推進班



谷田貝 哲
バスマップ沖縄
主宰

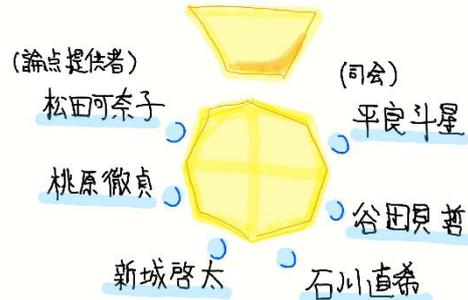
移動に関する 認知症まちづくり

地域円卓会議

認知症になることで直面する
「移動の困難」について考える

主催 沖縄認知症見守りコンソーシアム
(公益財団法人みら〜フンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会)

2024. 7. 21 (日) 14:00-17:00 ①
◎琉球大学附属図書館 2階ラウンジ・ホール



論点提供

松田可奈子

3年目のプロジェクト

「認知症の方々も安心・安全な
外出を担保できるまちづくり事業」

認知症になることで直面する
「移動の困難」について考える

休眠預金を活用

ミマモイド

1km以内と歩む
あつさ
公共交通で
介助タクシー
バイクで
家族が
他の家族は
のせよ
駅やバス停
の近く居場所

認知症の方の
「お出かけの権利」を
保障するための移動の
あり方について話し合おう

実行団体

▶ NPO法人 グラウンズーク ゆんたくばあ〜ゆぐみ

悪天候→転倒リスク 送迎サービス トイレ休憩所

▶ 了がパ会 遊農くらぶ

介助タクシー少ない 公共交通の路線少ない
タクシーの経済的負担 免許返納一貫性低い

▶ 南風原町社協 ちせでカズ、青空サロシ

公共交通の路線少ない 経済的負担
道まよへの負担 同業者の負担
急坂多と歩行困難 運転免許

▶ グリーンスター ゆら遊楽工房

無料利用者少ない 2人1泊2日必要

▶ 西原町社協 おんたてサロシ

地域の課題に対応できない

① 桃原 徹貞

南風原町 人口40,458人 高齢化率約19%
 幹線道路 整備されているが、地域内むずぶ
 道路交通ネットワーク 乏しい

町の高齢者・外出支援

- 高齢者外出支援タクシー料金助成事業
- 高齢者外出支援事業
- IAオンデマンド交通「mobi」

- バス停まで歩くことが困難
- タクシーがつかまえない
- 公民館でのミニデイサービスに
参加したいが、自分でむずかしい
→ ボランティアも高齢化

高齢者の「移動」の課題

認知症高齢者の移動

- 出先がない、方
考がでない
- 道迷いのリスク
- 家族の不安心配

② 新城 啓太

人権 すべて国民は、個人として尊重される

お出かけの権利は、公共の福祉に反しないため、
 ↳ 等しく保障される

認知症 介助 ⇒ 支援の段階や内容は変化していく ⇒ 多くの人的環境コストがかかる
 ↳ ニーズも変化する

✓ 皆でギリギリ合意していく

デパートへ行こう。
 ↓
 忘れてしまったら?
 ↓
 危い場合わいせつ
 わかなくて



③ 石川 直希

沖縄県 地域包括ケア推進班

- 認知症施策推進大綱
- 共生社会の実現を推進するための認知症基本法

認知症バリアフリーの推進

- 広域の移動むずかしい
- 車の必要なくなる
- バスもむずかしい
- 若年性認知症の方はとくに広域移動
- 行けても、戻ってこない
- ひろいジョブピアセンター、どこにいるかわからない

④ 谷田 貝哲

バスマップ沖縄

- 人口密度高いと公共交通利用高まるが、
- 沖縄は、クルマ移動多い
- 認知症予防 ← 歩くこと ← 健康な暮らし
- 認知症予防 ← 歩くこと ← 健康な暮らし
- 公共交通を使う生活は歩く
- バスの情報 → googleMAP / スマホの活用
- 認知症当事者のバス利用 → 37%が月数回以上 (国調査)
- バス会社 → 訓練、学ぶ機会足りない
- バス停を1つの拠点として、居場所つくるの必要
- バス以外の組み合わせ
 自転車との組み合わせなど、
 移動手段の組み合わせ

本人のサポート

クローージング

認知症 松田

物事の不自由さにより了を認識・共有する

迷感でかけたいなという言葉の海

予断・自断の限界を知る

多様なステークホルダーとの連携

専門職 + コーディネーター

認知症 → 進行する / 個別ケア / それぞれの
ニーズを把握

ご近所等部分 → 官民連携

想像力 - 自断の限界

社会で

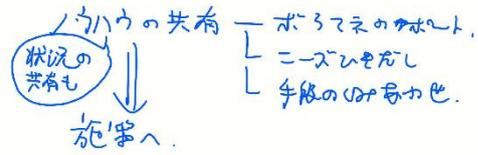
当事者の参加を促すための反省

対話の受け合い - 必ずしも受け合えない

平良

⑦

未だの自己実現E!



まちづくりの拠点

都市計画と交通

■今後のアプローチの方向性（提案）

- 多様なステークホルダーが事業に関わることで、認知症の方や高齢者の移動の困難に対応するそれぞれの移動手段のノウハウを共有したり、リソースを組み合わせたりすることができる。現状とノウハウの共有の場を引き続き保っていくことが大切。
- 認知症の方が自分らしく生きていくために、それぞれのニーズに対応できる個別ケアが重要。そのためには専門職のサポートだけではなく、それらをつなぐコーディネーター役が必要。
- 認知症という誰もがなりうる当事者意識の共感は「認知症」というキーワードをフックに、まちづくりに参入しようとする行動動機になりえる。自分ごととして捉え、自分が自分らしく生きていくためにはどういう社会をつくっていくべきか？を問い続け、考えていきたい。

■参加者によるサブセッション

認知症になることで直面する「移動の困難」について考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 免許返納の問題
- ・ 年金生活
- ・ バス代→安価にならないか
- ・ 送げいの連けい
- ・ 地域での居場所がなくなっている人の受け入れ先

②

- ・ 認知症の方々の問題を解決すべき
- ・ 困り事は大抵の人が一緒
- ・ 歩くことが認知症の改善になるという発見
- ・ 症状によって問題が違う
↳狭い範囲の高齢者の移動ではバスなどの公共交通では解決しにくい
- ・ 認知症の方をサポートする制度が必要
- ・ 若年性認知症は高齢者と違った視点が必要

③

- ・ バス停近くに居場所づくり
- ・ 既存制度の周知が必要
- ・ 往復サポートが必要ではないか
- ・ 不安を取り除くシステム (利用者)
- ・ 認知症サポーターの活用、研修
(オレンジリングをしている)
- ・ 介護タクシー割高(介護も含む為)使用に限定・・・退院時など
- ・ 外出の際、不明になった時の対応を前もって決めておく
- ・ シニアカー利用、GPS 利用、迷惑をかけたくない
- ・ 地域に受け入れ、同乗させた時の責任

④

- ・ 認知症の症度
↓
- ・ 一人身のサービスを知ってもらう方法
- ・ 休眠口座の問題点
- ・ 高齢者の一人での移動
- ・ 沖縄のバス遅延の問題
- ・ バス停の少なさ

⑤

- ・ 移動のヘルプをたのみやすさが男女差がある原因は？
- ・ タクシー会社との連携が取れないか？
- ・ GPS などの技術の利用
- ・ バスの乗り方も市内、市外で乗り方が違うので分かりにくい
- ・ 高齢者の考え方を変えていく
人にめいわくをかけると感じる
- ・ 認知症の人を車に乗せる際の責任

⑥

- ・ ローカルの問題
- ・ 認知症だけの課題ではない
- ・ 地域の店がへっている

⑦

- ・ タクシーの配車アプリと提携
- ・ 100 人いたら 6~8 人は認知症
- ・ 初期症状のうちに歩かせるプログラム作り

⑧

- ・ 町内だけの移動のむずかしさ
- ・ 道路の配慮

⑨

- ・ 認知症だったらバスのれない
- ・ トイレから戻れない
(デパート内で迷子になりやすい)
- ・ 交通機関が他とつなげにくい
- ・ 数 10 分歩かないと他のバスに乗れない
→扱いにくい
- ・ 使うために、リンクのしやすさをどうにか身近にあるのに身近にない
- ・ 認知する過程が多い
空間認知能力 地域ぐるみ 周囲の理解
もっと自分事に
それがあるのがあたりまえの認識に
身近なもの
- ・ 帰ってこれなくなると恐い、管理する
認知症になったからといって出かける自由
をうばってはいけない
- ・ 認知症で施設にこもりがち
外に出すのは危険
- ・ コミュニティを早い段階で作っておく
感想
- ・ 昔はどうしていたか知りたい
- ・ 送げいに関与するのが NG な社協もある
→ボランティアの人が送迎する時に保険を
つけた (根本的な解決になってない…)
- ・ デジタル技術をもっとフル活用したらいい
かも(mobi みたいに)
- ・ 高齢者になった時、車移動以外の選択肢がふ
えたらいい
- ・ 費用と人材への負担が大きい公共交通の利用
を増やす→そのために自分たちも利用し
ないと
- ・ 人材不足について、外国人労働者とうまくマ
ッチングできないか？(運転手だったりとか)

⑩

- ・ 若年性認知症バス移動できるのにびっくり
- ・ 室内戻れないのを知れた
- ・ 認知症だけでなく高齢者全体
- ・ 認知症移動難しい
- ・ 免許返納すること初めて知った
- ・ 解決まだ
- ・ バス・タクシーコミュニティーバスの連ケイ
も必要
- ・ ひとつ改善してもまた問題になりそう
- ・ 認知症ケア大変、家族心配、ケガ
- ・ 移動だけでなく、ケアする人が必要、移動よ
り先に
- ・ 若年せいそもそもディケアない、高齢者ケア
ある移動必要
- ・ 身近にいないと実感ない
- ・ 認知症 GPS つけるといいかも

⑪

「バスについて」

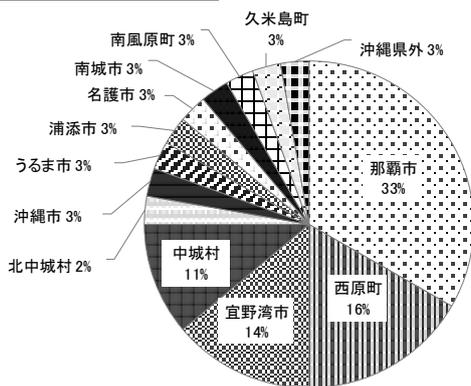
- ・ 数時間に 1 本しか来ないところもあって不
便…
- ・ 昔は軽貨物も走ってたよね
- ・ バス停はあれどそこを結ぶバスがないー
- ・ 高齢者になると「人の迷惑になるからいいよ
〜」と公共交通機関を避ける人も多く…
私たちとしては、頼ってほしい！／／で
も心のバリアがやっぱりある…
- ・ 高齢者のサポートにはやはり多くの助けが
いる⇒地域ぐるみの面でのサポート
富山、金沢ではそれがすすんでいる
「施設」といってもかたい感じではなく日常
生活の延長
でもちゃんと中にいるのは資格をもった福
祉士の人たち
地域のつながりを強くするために年代問わ
ず、障害の有無も問わずみんなであつまるパ
ーティーを行うなどの提案！

移動に関する認知症まちづくり地域円卓会議 参加者アンケート集計

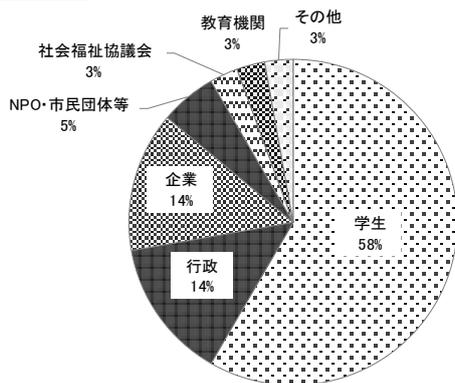
◆概要

- ・日時：2024年7月21日（日）14:00-17:00
- ・場所：琉球大学附属図書館
2階ラーニング・commons
- ・着席者：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：43名（学生、行政、企業等）
(アンケート回収36名、回収率84%)

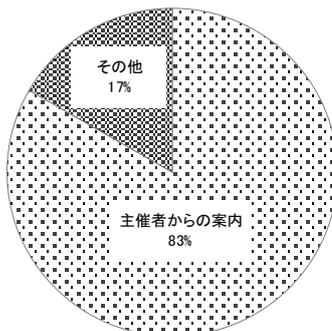
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.6（5点中）

満足度	人数
5. 満足	25名
4. 概ね満足	8名
3. 普通	3名
2. あまり満足していない	0名
1. 不満足	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 社会の問題を様々な観点から考える事が出来ました。まずは知ることからだと思いました
- ・ 円卓会議を実際に見ることができ、より具体的にイメージすることができた
- ・ 認知症の方が地域で生活するにあたっての課題が分かった。専門科の方々の知識をたくさん知れてよかった
- ・ 認知症の方の生活を支えるむずかしさとまちづくりのバリアフリーを周知させ発展させることも同時にむずかしく、大事な事だと気づきがありました
- ・ 認知症の人が、具体的にどのようなことで移動に困るのか、現場の人たちから聞くことができたから
- ・ 実際の円卓会議を見ることができ、すごくタメになりました。課題の提案から、それぞれの立場の視点からの意見を聞き、セッション・サブセッション 全てが初めての経験で面白かったです。今後の自分で行う会議などに役立てたいです
- ・ 「移動」と一言と言っても移動の前後に伴う事象についての視点を得られた事が良かった。また、事業者、行政、士業といった幅広い視点からの意見を得られたことも良かった

- ・ 様々な立場の人が、一つの課題にそれぞれの視点で議論するのが、とても良かった。課題の当事者の気持ちを想像しながら、どのような支援が必要なのかを考え、共有する機会として、非常に価値のある会議であったと思う
- ・ 初めて円卓に参加しました。様々な視点(行政の方、南風原の方、バス会社の方等)で話を聞いたことがとても良い経験になりました。実際に私自身も関わりがある問題ではなく、参加する前は何も考えずに参加しましたが、私達ができることはまずはこんな風な問題があることを知って共有することだと感じました。今回の経験を思い出にすだけでなく、次に活かせると良いなと思います
- ・ 円卓会議の全体を学ぶことができた。テーマについては、日常で知らないことだったことから、深掘りしての視野が広がり、問題を整理して考えることができた
- ・ 課題の大きさに圧倒されたが、事例の豊富さ、現場の工夫、今後の展望を聞くことができ過度に悲観的にならずに済んだ
- ・ 専門家からのリアルな現状を聞くことができる
- ・ 実際に多くの認知症の方等に関する方の、困り事が具体的で大変参考になった
また「徘徊」や「出て」勝手に出て行って困る」という視点ではなく、「出かけた時に出かける」当然の権利という姿勢がとても良いと思う。”支援” 助けてあげるではなく、将来自分もなる可能性があり、だれもが安全に気兼ねなく出かけられる社会にしたいと思った
- ・ そもそも高齢者の移動がこんなにも大変なことを考えてもみなかったのだから考えるきっかけになりました。そして今おきているげんじょうを知ることがすごくためになりました
- ・ 去年は課目として受講してましたが知識を深められた
- ・ 元社協職員として高齢者居場所づくりを担当しており、移動問題は社協時代に取り組んだ重点課題でもあったので、今回様々な立場で移動に関わるセクターの方々から意見やアイデアが聞けて有意義な会ぎだったと思った
- ・ 移動支援についてなかなかリアルな現場に向きあった施策がない中で皆で考える機会ができてよかったです
- ・ 認知症に対し本人の視点からではなくどう解決するかしか考えていなかったが改めて考えさせられた。今の問題点などを分かりやすく提示されていた
- ・ いろいろ勉強になりました
- ・ 今回は、自分自身には、あまりなじみのない「認知症」についての議論だったが、とても有意義な時になった。「認知症」と向き合うには、あらゆる想像力が必要だと今回の議論を通じて思った。移動に関しても、交通の面や福祉の面などあらゆる面での話を聞くことが出来る驚かされるが多かった。今後とも、このような議題に直面したら、理解していこうと思った
- ・ 移動に関する認知症まちづくりというテーマの中で、移動だけの問題ではなくバス停の近くに施設配置など他の面からの視点がたくさんあり楽しかった
- ・ このような催しはあることをそもそも知らず、授業を通して実際に参加することができてよかったです。1つのテーマに対して多様なステークホルダーが集まって議論できる場は、問題を多くの人が意識してできる点でもいいと思った
- ・ 認知症についての移動を様々な視点から見ることで、自分自身の世界の狭さを思い知らされたため
- ・ 認知症になることで直面する「移動の困難」

について考えることを色々な角度から見ることで色々な意見を聞くことができたことが良かったです

(4. 概ね満足)

- ・ 地域円卓会議はキーパーソンのみががっつり参加するものだとして理解していたが、ぼうちよう者としての楽しみ方よく分からなかった！楽しみ方、考え方を学びたい
- ・ 貴重な体験ありがとうございました。初めて参加させていただいたのですが、単純に解決策のある課題でもなく、それぞれの視点や意見があり、いろいろと考えさせられました
- ・ 実際に参加することができたので（オーディエンス）
- ・ 現場の生の声を聞くことができた
- ・ “ふりかえり”の仕方を見ることができた
- ・ ひとつの内容にかかわる様々なひとの意見をきくことができ、とても良い機会であると感じました。そこで得た学びを改善に活かすことができているのか、その後も知れるとなおいいのかと思います！
- ・ 身近な問題だったので、興味深く話をきくことが出来た。自分が認知だったら、家族の立場によって意見が変わるという体験ができたのでとても良かったと思う
- ・ 認知症に関連して色々な課題があることが分かった。また、サブセッションに参加して参加者間で話し合えたのも良かった
- ・ サブセッションの時間がもっとあればうれしかった

(3. 普通)

- ・ 思ったより長くて集中が続かなかったから
- ・ 認知症の方々の単独移動の安全性（身体的、生命的）が確保できないと方法を考えても…という思いです。が、刺激は必要だとの思いもあります。難しいですね

- ・ あまり馴じみのなかった話題であったが様々な論点について知ることができた。ただ、思っていたよりも認知症という議題は粒度が大きく症状も人それぞれであるので、一律に議論すると話の方向性がぼやけてしまうと感じた

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ キャスティングも、個々のみなさんの視点も、すべて適格な思いの深い話 だったと思います、都市計画、まちづくりについて 25年、福祉軸の地方創生、生涯活躍のまちづくりは2016年から計画、社会実装のため協働して きましたので、今後、ぜひノウハウを かけ合わせることでできればと 思います。産学官、官民連けいの取り組みがさらに 広がることを願っています
- ・ クロージングで出た「難しいけど無理じゃない」という言葉
- ・ バス停の近くに施設を作る
- ・ 公共交通機関を活用できそうだというのが印象に残った。人やお金などない物を求めるばかりでなく、今あるバスなどの公共交通機関を活かせるだろうと思った
- ・ サブセッションでローカルの問題でもあるとの話がありました
- ・ 小売店の減少・支えあいネットワーク(ご近所づきあい)
- ・ 居場所を、交通アクセスがいいところにつくる
- ・ 複数の交通手段を組みあわせる
- ・ 若い人に今のうちから公共交通をつかってもらう(認知症で免許返納した時に備えて)
- ・ 仕事柄、認知症の人と関ることは多く、この課題は身近な問題だと感じました。公共交通機関利用の活用は、もっとアイデアが出そうなので、期待が持てた
- ・ 居場所を駅などのちかくにとる
- ・ バス停・駅の周辺に交流施設などをつくる

べき。高齢者の中には、ヘルプを言いにくい、迷惑をかけたくないと思っている人も多く、積極的に交流したいという人でも中々コミュニティに入りにくいという課題について、とても考えさせられた。また、シニアカーの導入は面白いと思った

- ・ 普段出来ていることが当たり前だと感じていると視野が狭くなってしまおうと感じた。自分や身近な人が認知症になっていないと意識が希薄になりがち。移動手段に対してもう少し目を向けてみるのが大事
- ・ バス停の近くに集まれる場所を作ること→バスの利用客も増えるし、車がない遠方の方も参加しやすい、友達と一緒に帰れるから
農業をする→体も動かせて、やりがいがあり、自分が将来やってみたいから
当事者自身はあまり言いたくない(困っていることを)を知って、これからのせし方を改めるべきだと感じた
- ・ 議論を板書して見える化する大切さが印象に残った
移動を権利としてとらえ、包括的に関心を集めつつ、都市計画や公共交通に落とし込んでいくことは、具体的に示されていないが、良いアイデアだと感じた
- ・ 新城さんが、認知症の人が目的を叶えるまでに、移動手段の手配に留まらず、その先での同行支援の必要性まで紹介していたのが、印象的だった。高齢者の移動支援と認知症の移動支援を分けて、目的別・症状の程度、提供主体別など細かく整理して関係者で共有・ブラッシュアップしてもらいたい
- ・ 移動のくみあわせやノウハウ、リソース、コストをかけること以外の方法もある
- ・ 認知症の当人は何か困っているという事は少なく、コミュニケーションの中で見つけていくことが大事であるということ
- ・ 通いの場まで行けない高齢者も多いので、

駅やバス停近くに作るのはいかがという意見は”なるほど”と思った。また阿波連さんが相手に気を遣わせないように、さりげなく付き添いをされていると話されていた。

「迷惑をかけてはいけない、迷惑をかけるのは悪いこと」という意識も、今みんなを変えていく必要があると思った。また、以前自閉症のこどもの見える世界をイラスト化したものがあり、すごく理解できた。番組ポスター等でもっと認知症の方の見える世界、困りごと助け方を広く知らせるとよいと思った

- ・ デイサービスの方もてつだっていただくこと、ひとにめいわくをかけたくない認知症をもたれている方に対しての社会のありかたをかえるという方向性がいいとおもいました
- ・ バス停の近くへのアイデア⇒政策に反応できる(ネタ)
- ・ 「来れないならこちらが行く」出張型の居場所
バス停のちかくに居場所をつくる(公共性の高い施設など)
移動だけで解決できない問題もある(その先の目的が達成できているかどうかはまた別である)
- ・ 認知症サポーターを支援(移動・同行 etc)に活かす方法、移動に関しては老いの負い目と向きあい、折り合い(身体機能の低下と共に移動範囲の妥協)をつけていくのも大切
- ・ バスの使用が難しい方々向けにバス停の近片に集会所を設置するという案が良かった。一人でも理解している方がいればその人を中心にバスの利用が広まるのではと感じた
- ・ 認知症の移動についていろいろ勉強になりました
- ・ 難しいけれど無理ではないという言葉
- ・ mobiについて知らなかったが、デジタル×

福祉はとて面白いアイデアだと感じた。ICTをどんどん活用して、人材不足に対処していくといいと思う

- ・ 認知症であっても出かける権利があるということ。私は管理したくなってしまうが、それは保障されているはずの人権をムシするということにつながることであった
- ・ ”歩くことは認知症の改善にも有効”とのことが勉強になりました
- ・ 「移動」という考え方にはそれに使う目的と活動、行動、消費なども切りはなせない存在という考え方に目からウロコでした
- ・ 印象に残ったこととしては、認知症の方の周りで支えている側の大変さです。自分自身身近な活ではなく、実体はわからなかったのですが、話を聞いていると夜中のはいかいや物忘れに対しての補助は、身心ともに大変なものだと感じました。しかし、認知症の方も外にできる権利は当然あるので、親族の方などが困らないような、社会のしくみが必要となります。現状ボランティアや公共機関だけでは、どうにもならない部分が多すぎるということで、一般の自分たちが現状を知って見かけたらできることを探すなどの行動が少しでもできたらいいと思えました
- ・ 居場所は公共交通の路線の近くに→公共交通の魅力向上にもつながる
既存の枠組みをうまく使う（認知症サポーターなど）
- ・ 私はまだ車をもっていない（免許ももっていません）ので、その考えはなかったのですが 谷田貝さんのおっしゃっていた「そもそも車社会すぎて車以外での移動が頭に なさすぎる」というお話はおもしろいと感じました。移動手段について、スマホを使わない人にも届くにはどうしたらいいか考えるべきですね
- ・ バスと別ののりもの（自転車、シニアカー）

の組み合わせもおもしろいと思った。しかし、沖縄の道路のほその悪さもあるので、そこも考えていく必要があるなと感じた

- ・ バス等の公共交通機関などの町づくりと認知症も関係があることを知れた
- ・ バス停近くに居場所づくり（アクセスの良い場所）
- ・ 高齢者や認知症の位置把握に GPS 利用はいい考えだと思います。ただ、その情報を誰がどのようににはあくしまとめるのか？等課題はあるのかな
- ・ 考えれば当たり前だが、認知症の方が一人でバスなどの公共交通機関に乗ることが出来ず、免許返納が出来ないのは盲点だった
デパート等でトイレへの道案内はあるが、その逆がないから、元の場所に戻れない問題があることに驚いた

(写真) 会場の様子



- ・免許返納の問題
- ・年金生活
- ・バス代 → 安価にはない
- ・送迎サービスの遅延
- ・地域での居場所
がなくなっている人の
受け入れ先

- ・認知症の方々の問題を解決へ
- ・困り事は大抵の人が一緒
- ・歩くことが認知症の改善になるという発見
- ・症状により問題が違ふ
↳ 狭い範囲の高齢者の移動には
バスなどの公共交通では解決しにくい
- ・認知症の方をサポートする制度が必要
- ・若年性認知症は高齢者と違ふ視点が必要

- ・バス停近くに居場所づくり
- ・即存制度の周知が必要
- ・往復サポートが必要ではないか
- ・不安を取り除くシステム
(利用者)
- ・認知症サポーターの活用研修
(オレンジリングをしている)
- ・介護タクシー制高(介護も含む者)
使用に限定...退院時など
- ・外出の際、不明になった時の
対応を前もって決めておく

- ・シェアカー利用、GPS利用、連絡をかけたくない
- ・地域に乗り入れ、同乗させた時の責任

認知症の重症度

↓
一人身の方をサービスを知って
もらう方法

限
休職 口座の問題点

高齢者の一人での移動

沖縄のバス遅延の問題

バス停の少なさ

・認知症になったらバスの中ない
・トイレから戻れない (デパート内で迷子に
なれない)

・交通機関が他とつなげにくい
・数回歩かないと他のバスに乗れない。
→ 歩にくい
・使うために、リンクのしずこまでどうにか
・身軽に歩けるように身直にない

・認知症の過程が早い
・空間認知能力
・地域ぐるみ、周囲の理解。もともと自分で。
・とかがあつたあつたの認識に身直なもの。

・家でこもりがちになること... 管理する
・認知症になったからといって出かける自由をうばってはいけ
ない。

・認知症で施設にこもりがち。外に出るのは危険
・コミュニティを早い段階で作っておく。

感想

・昔はどうしていたか思い出したい
・送迎に関与するのがNGな社事情
もある → ボランティアの人が送迎
する時に保険をつけた (根本的な
解決にはなっていない...)

・デジタル技術をもっとフル活用
したらいいかも (mobilityに)

・高齢者になった時、車移動以外
の選択肢がふたつにいい

・費用と人材への負担が大きい
公共交通の利用を増やす

→ そのために自分たちも利用しない

・人材不足について、外国人労働
者より多くマッチングできないか? (運
転手だったりとか)

- ・移動のヘルプをたのませることが男女差がある理由は?
- ・タクシー会社との連携が取れないか?
- ・GPSなどの技術の利用
- ・バスの乗り方も市内・市外で乗り方が違うので分かりにくい
- ・高齢者の考え方を変えていく人により多くをかける感じ
- ・認知症の人を車に乗せる際の責任

ローカルの問題
認知症以外の課題は多い
地域の店か入っている

- ・タクシーの配車アプリと提携
- ・100人に1人 6~8人は認知症
- ・初期症状のうろたえを歩かせ
プログラム作り

- 町内だけで初期症状を知らせ
- 道路 ~~を~~ 走る

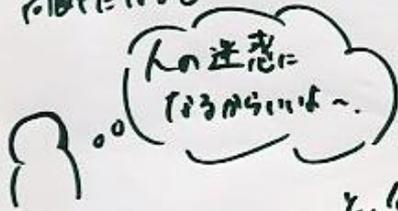
- 若年制認知症 バス移動できるのにびっくり
- 室内戻れないのを知れた
- 認知症だけでなく高齢者全体
- 認知症移動力 難しい
- 免許返納すること初めて知った
- 解決まだ
- バス、タクシー、シェアバス、速ケイも必要
- ひとつ改善してもまだ問題になりそう

- 認知症ケア大変 家族心配ケガ
- 移動だけでなく、介助する人が必要、移動より先に
- 若年制も増えてきた、高齢者ケアも移動も
- 負担にのたんと実感
- ・ 認知症GPS いろいろある

バスについて

- ・ 数時間に一本しか来ないというところもあって不便...
- ・ 昔は軽貨物も走ってたよね
- ・ バス停はあれどキニエデカいバスがないー。

高齢になると



私たちが欲しい

!! 頼ってほしい !!

でも100のバリエーションがある...

と、公共交通機関を
避ける人も多し...

高齢者のサポートには

やはり多くの人がいる



地域ごとの「面」サポート

富山、金沢では
それがすすんでいる

「施設」という

かたい感じではたか

日常生活の延長

でもちゃんと中にはあつ

資格をもった福祉士の人たち

地域のつながりを強くする仕組み

年代問わず、障害の有無も問わず

みんなであつたパーティーも行う

その提案!